

介護現場にこそ哲学を 老いゆく世界に佇む思惟の行方

介護哲学研究室 カイゴ・テラス

前田卓弥

介護哲学研究室 カイゴ・テラス

「知」に触れる、昔々、それは限られた人しか許されませんでした。そのため、「知」は格差による階級の象徴でもありました。

時代が進み、テクノロジーの発達やインターネット、スマホの普及することで、誰もが「知」に触れ、自分の手の平のうえで「知」にアクセスできるようになりました。

しかし、その先で待っていたのは、正解と不正解を探す「知」の姿した。そして、次第に「言葉」を失う「人間」の姿がそこにありました。

果たして、私たちが描きたい未来はこのような世界であったのだろうか、そんな問題意識を背景に設立しました。

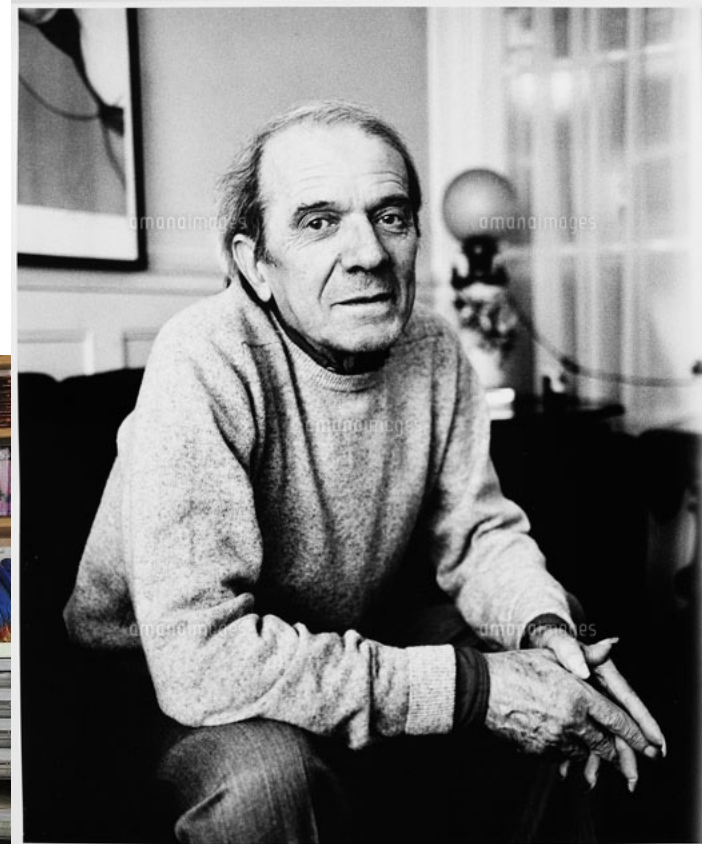


哲学との出会い

東浩紀



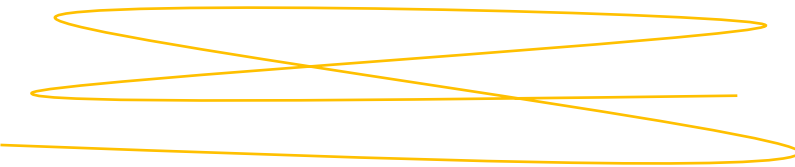
立花隆



ドゥルーズ



普段何気なく使う言葉で似ているもの

老い  高齢(期・者)

それぞれにはどのような意味があるのだろう。

高齢(期・者)

「国連の世界保健機関(WHO)の定義では、65歳以上の人のことを高齢者としています。65-74歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者と呼びます。」

ここから何が読み取れるのか…

古い 「マンションのベランダの蟬」



老い

老い とは ……。

会場の皆さんに質問します。

皆さんは老いをどのように表現しますか？

今、介護の世界で話題となっていること

- 科学的介護
(=科学風？統計的？介護)
- テクノロジーによる時間創出
(作業時間の短縮)
- 介護現場の生産性向上
- 介護施設の人員配置基準の緩和(4対1問題)

未来投資会議における議論について

科学的介護サービス

【経緯】

- ・未来投資戦略2017（平成29年6月9日閣議決定）に、自立支援・重度化防止の効果が科学的に裏付けられた介護を実現するため、必要なデータを収集・分析するためのデータベースを構築することが盛り込まれた。
- ・これを踏まえ、2017年10月より、「科学的裏付けに基づく介護に係る検討会」を設置し、科学的に自立支援等の効果が裏付けられた介護サービスの方法論を確立し、普及していくために必要な検討を開始。

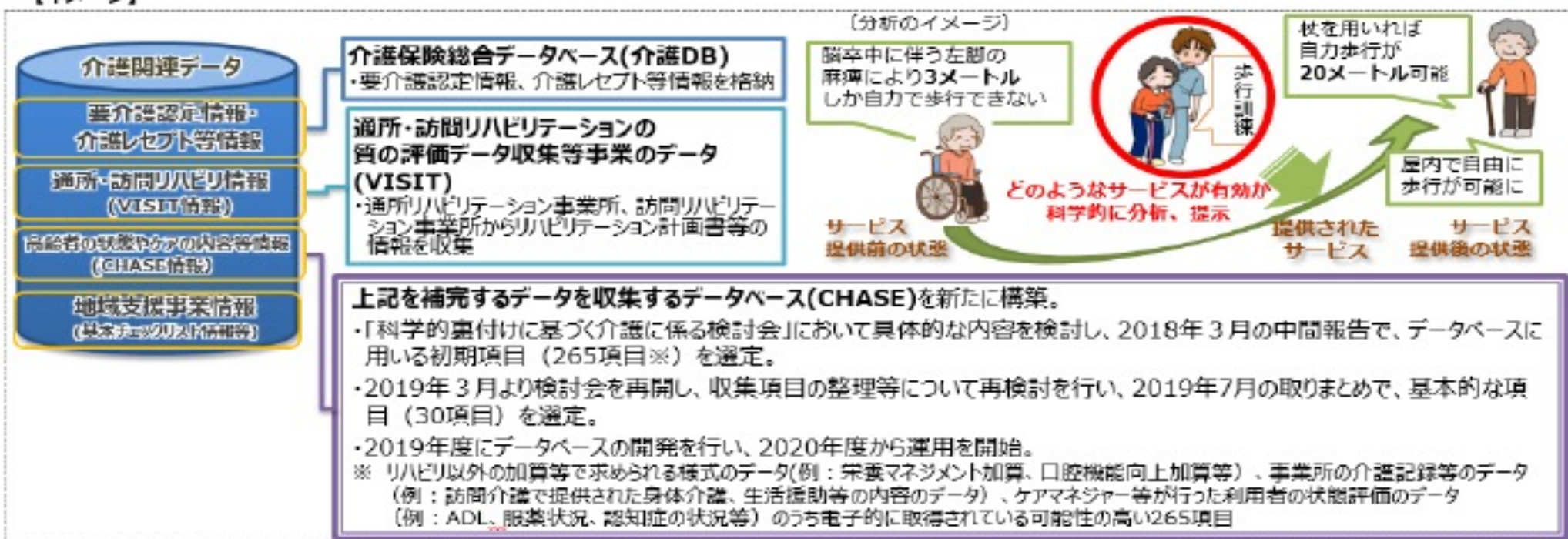
【このサービスで目指すこと】

- ・データベースに収集されたデータの分析等を通して得られたエビデンスの蓄積、現場への周知・普及を通して、科学的裏付けに基づく介護の実践を進める。

【このサービスで実現できること】

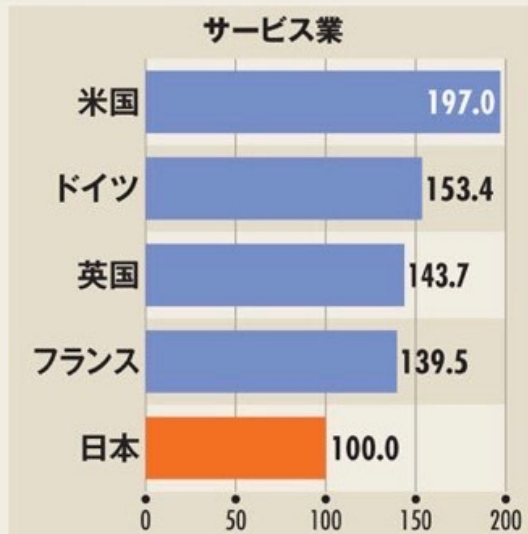
- ・科学的に自立支援等の効果が裏付けられた介護を実現するため、分析に必要なデータを新たに収集するデータベースを構築。
- ・データベースを分析し、科学的に自立支援等の効果が裏付けられたサービスを国民に提示。

【イメージ】



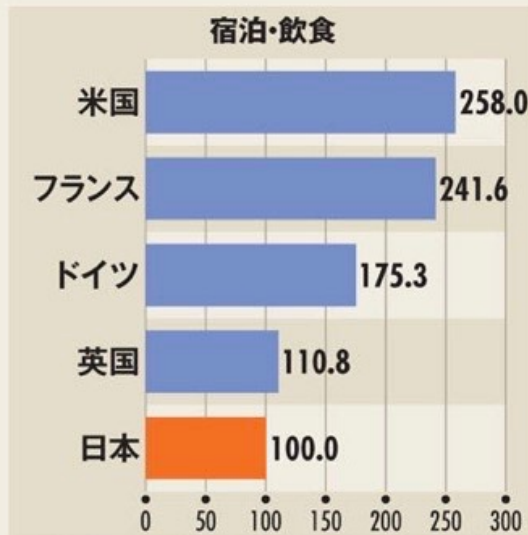
日本はサービス業が生産性向上の足かせに

日本と主要国の生産性水準の比較



*日本を100としたときの数値で、購買力平価換算
出所:OECD

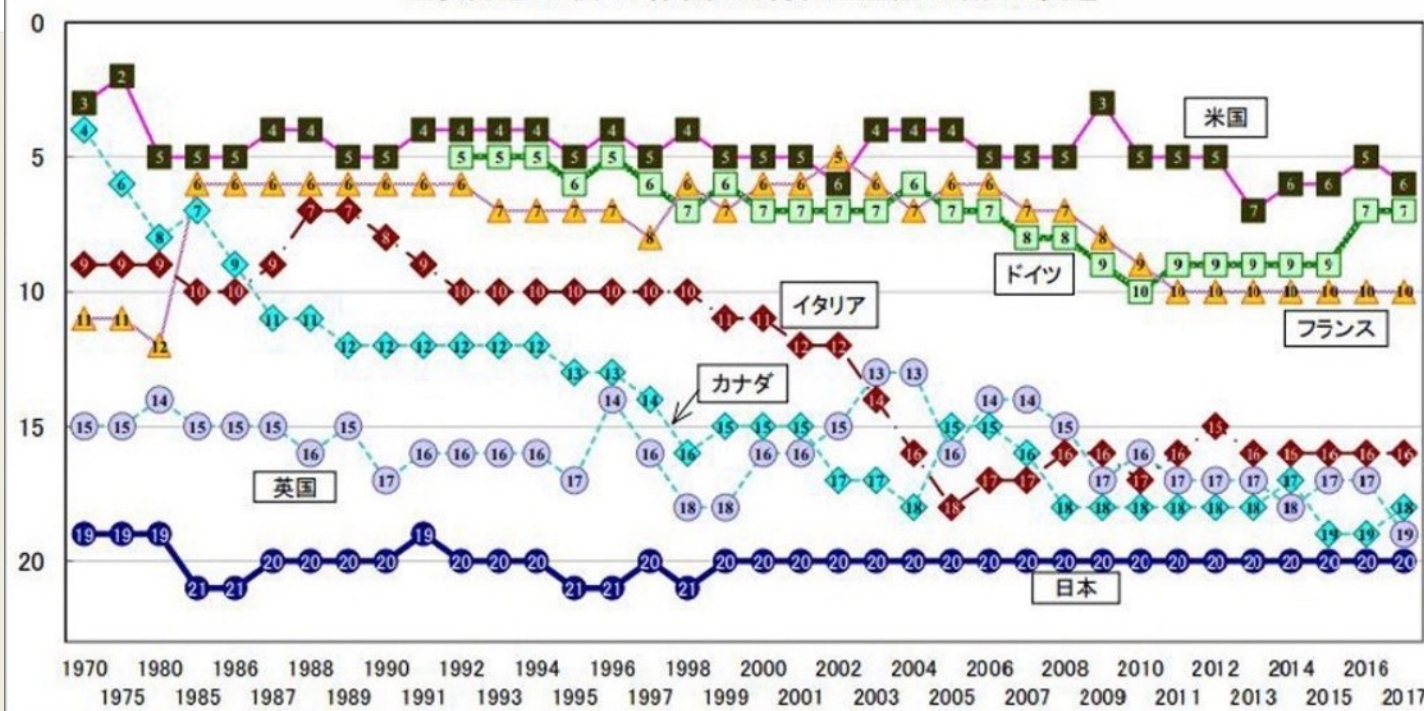
*日本を100としたときの数値 出所:日本生産性本部



*日本を100としたときの数値 出所:日本生産性本部

*日本を100としたときの数値 出所:日本生産性本部

主要先進7カ国の時間あたり労働生産性の順位の変遷



介護業界でも数年前から生産性向上の圧力の波が来ています。

介護現場の生産性向上に関する全国セミナーがスタート！



1.介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン

(1) 施設サービス分

施設サービス ガイドライン (令和元年度改訂版)

本編 (改訂版) (前編) [15,340KB]
 本編 (改訂版) (中編) [39,880KB]
 本編 (改訂版) (後編) [12,176KB]
 本編 (自治体向け) [28,749KB]

【参考】平成30年度版
 本編 [44,373KB]
 概要 (改訂版) [1,441KB]

(2) 居宅サービス分

居宅サービス ガイドライン (令和元年度改訂版)

本編 (改訂版) [18,217KB]
 概要 (改訂版) [2,126KB]

【参考】平成30年度版
 本編 [22,035KB]
 概要 [5,204KB]

- そもそも**介護報酬の総額**は、介護を必要とする**高齢者の増加**などの要因により通常のトレンドとして**毎年度増加**しており、サービス提供体制次第で、介護報酬改定による増加に頼らずとも、**介護サービス事業者が恒常的に増収増益を確保し得る余地がある**と考えられる。
- 尤も、個々の介護事業所・施設についてみれば、施設や介護人材の制約から**利用定員増等には限りがある**と考えられるが、そうであればこそ**ICT化等を進め、効率的なサービス提供を実現することにより、介護現場における生産性向上を図り、介護サービスの質の確保とコストの縮減（事業者の利益の確保）を両立させる必要がある。**

財務省の方々は、「おいおい、よく見たら、特養っちゅーところは基準より沢山の人を雇って介護してる所ばかりじゃないか。（最低）基準（3対1）に近い施設でやっている所もあるんなら、それを（最高）基準に今後はしていくように進めよう、と数年前から考えています。

◆ 介護施設の運営の効率化

- ・労働集約的なサービス提供が行われており、**人員を基準より多く配置**する状況が常態化。

・介護老人福祉施設（特養）の介護・看護職員配置比率

（入所者／常勤換算職員数）



⇒ ICT・介護ロボット等の活用により、**効率的な人員配置、介護職員の負担軽減が可能。**

実際に **2.87人に1人程度を実現している施設も存在。**

◆ 介護の生産性向上に向けた最近の主な予算事業

地域医療介護総合確保基金による支援（82億円の内数）

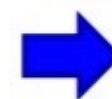
①介護ロボットの導入支援

- ・移乗支援等の介護ロボット導入経費の補助
- ・見守りセンサーの導入に伴うWi-Fi工事等の通信環境整備経費の補助

②介護事業所におけるICT導入の加速化支援

- ・介護ソフトやタブレット端末等の導入経費の補助

介護ロボットの導入効果実証研究事業（2.3億円）



予算事業を有効に活用しつつ、導入効果
を分析・検証し、制度改革に活用

○装着型パワーアシスト ○非装着型離床アシスト ○入浴アシストキャリー ○見守りセンサー（見守り）



内閣府内の成長戦略会議メンバー 「日本の未来のアクションプランを考えている方」
(経済財政諮問会議を具体的アクションに落とすことが目的で構成されるとされているも、
菅さんが大好きな人が集まっていると一般的に言われる会議)

(開催要領)

1. 開催日時：2020 年 12月 1日 (火) 17:10~17:45

2. 場 所：官邸2階大ホール

3. 出席者：

菅	義偉	内閣総理大臣
加藤	勝信	内閣官房長官
西村	康稔	経済再生担当 兼 全世代型社会保障改革担当 兼 内閣府特命担当大臣 (経済財政政策)
梶山	弘志	経済産業大臣
麻生	太郎	内閣府特命担当大臣 (金融) 兼財務大臣
金丸	恭文	フューチャー株式会社代表取締役会長兼社長 グループ CEO
國部	毅	株式会社三井住友フィナンシャルグループ 取締役会長
櫻田	謙悟	SOMPOホールディングス株式会社 グループCEO代表取締役社長 社長執行役員
竹中	平蔵	慶應義塾大学名誉教授
デービッド・アトキンソン		株式会社小西美術工藝社代表取締役社長
南場	智子	株式会社ディー・エヌ・エー代表取締役会長
三浦	瑠麗	株式会社山猫総合研究所代表
三村	明夫	日本商工会議所会頭

櫻田さん (介護を大規模展開している民間経営者)
→「これから介護分野は人がいなくなるけど、4対1を目指せば人数は足りるから大丈夫!!」
→「オランダは夜間は30対1くらいだから、夜間は夜勤配置はもっと日本も減らせるはず」

アトキンソンさん
日本は中小企業優遇してきたからだめ。生産性悪い。大企業の方が生産性高いんだから、合併促さなきゃ。これからの日本は観光業!!

介護の世界における闘争



コーディネーター：
池田徹（社会福祉法人生活クラブ風の村特別常任顧問）

メインスピーカー：
本間郁子（Uビジョン研究所 理事長）
「人間の尊厳が守られない改正は持続できない」

発言者：
高口光子（元気がでる介護研究所 代表）
「4:1配置で介護はますます働きにくくなる」

坂野悠己（総合ケアセンター駒場苑 施設長）
「4:1配置で施設のケアが監視と管理に変わる！」

小川泰子（社会福祉法人いきいき福祉会 理事長）
「介護の専門性を育てる環境が崩れていく！！」

現場の介護職員 複数名
「こんな介護保険改定は嫌だ！」

認知症の人と家族の会（未定）
活動報告＆署名活動アピール

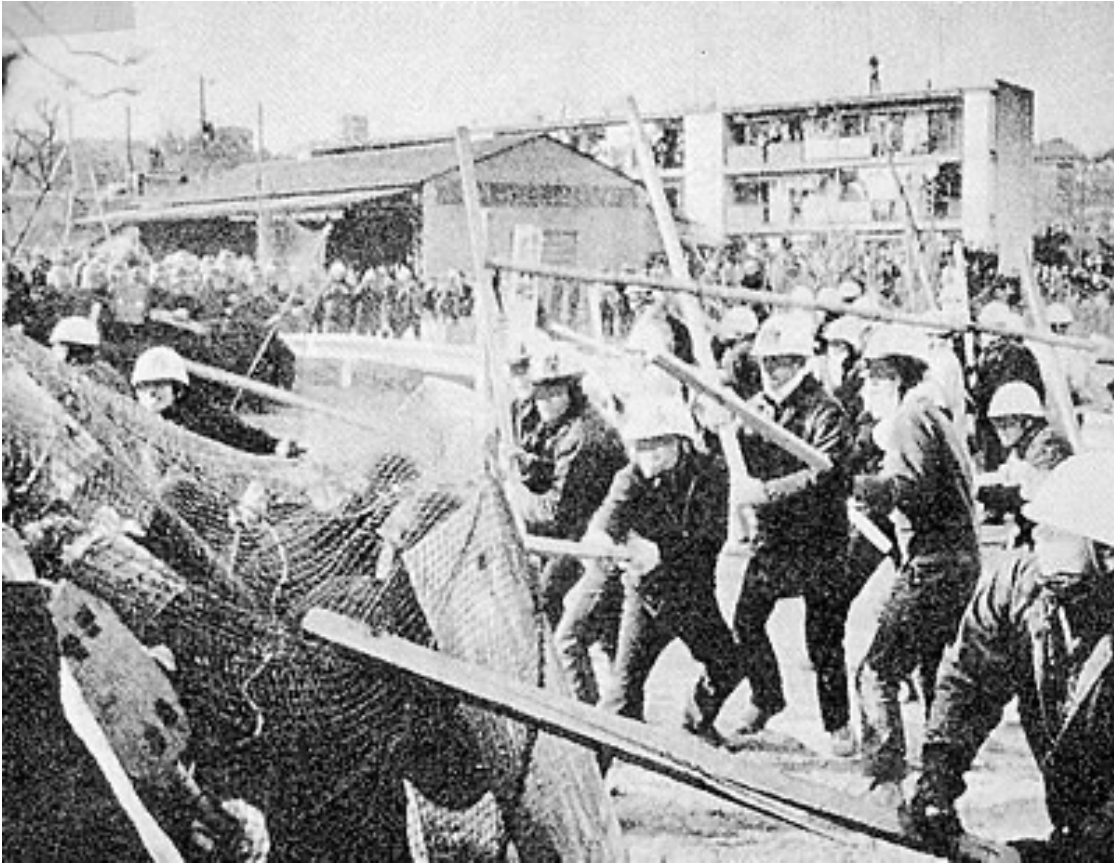
介護の世界の片隅で

彼らはなぜ、こんなにも怒っているのだろうか？

このような行動に意味はあるのだろうか？

三里塚の怒り

三里塚闘争とは、1960年代後半から70年代にかけて新左翼の象徴にもなった成田空港建設反対運動の別名。



三里塚闘争の様子。

彼らはとにかく怒っていた。顔を歪ませ、叫んでいた。交渉にきた職員に罵声を浴びせ、ブルドーザーの入る土地に砦を築き、杭に身体を縛り付けて怒鳴っていた。

土地を奪われる農夫だけではなく、腹の大きな妊婦や、歯の抜けた老婆や、年端(としは)のいかない子どもまでもが、スクラムを組み、安全武装の機動隊に対峙し「空港粉碎」を唱えていた。

そのような怒りの表出が、わずか半世紀前、首都から数十キロの場所で展開されていた。

彼らの行動は無駄であったのか。

合理的思考は無駄の忘却を強いる。

僕たちは、今ここにいる自分の選択を肯定するために、無駄なこと、役に立たないことをどんどん忘れていく。

彼らは空港建設を中止できたわけでもなく、社会に何らかの影響を与えられたわけでもない。

だから、無駄と言えは無駄である。

でも、その無駄がなければ、人々は一つの物語だけを信じ、一つの合理性の中だけに閉じ込められてしまう。

だから、何かを未来に伝えるためには、ただ事実を記録するだけでなく、未来の合理性を揺るがす仕掛けもまた用意する必要がある。

複数の物語を記憶すること

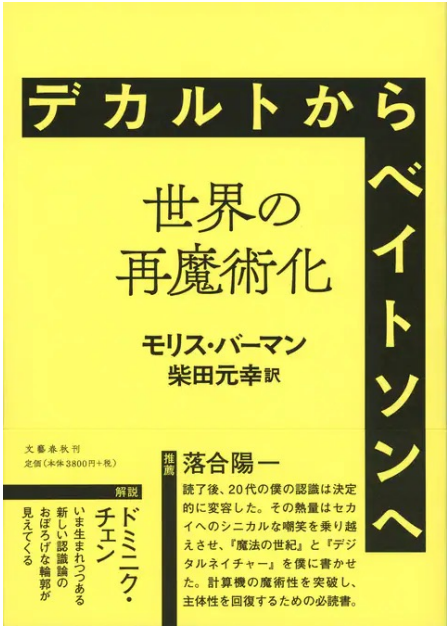
歴史は常に複数の物語から成立している。

物語は事実の集積だけからなるのではなく、そこにひとりひとりの価値が加わってはじめて成立する。

過去を記憶するとは、本来はそれら複数の物語を矛盾を含めて記憶することである。

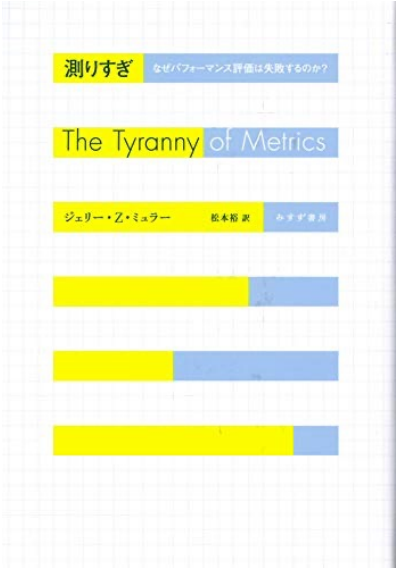
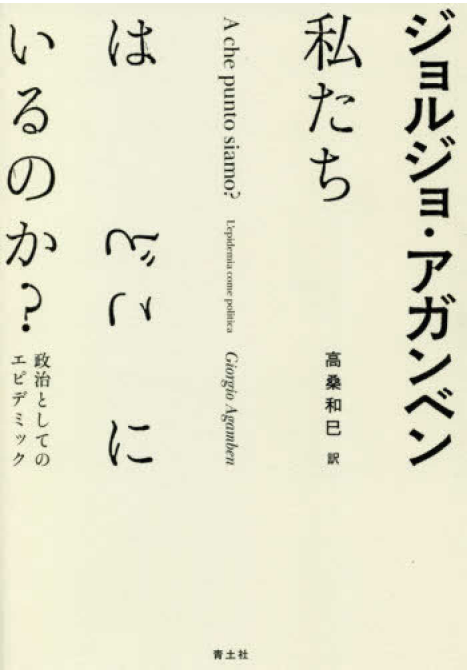
…感情の記録はまさにその限界を崩してくれる。半世紀前の怒り続けている農民たちの記録を見るとき、僕たちはいつの間にか、なぜこのこの人たちは怒っているのだろうと、…そこに記録されている内部の視点から理解しようと、別の物語の可能性について考え始めることになる。

科学(的思考)への危機感



理系
反復可能な知

文系
反復不可能な知



生存形式と生活形式



生存形式

社会の構成員を数学的に表現、すなわち数としてカウント、あるいは動物的に考えることで、彼らをコントロールすること。
(社会進歩主義(優生学)、社会統計学(生政治)、社会物理学(数) 等の考え方)

生活形式

人間の精神における「意味」の次元。感情、感覚、気分等、主観的側面であり、理由を意味するもの。

テイラーの科学的管理法

(1) 課業管理(task management)： 5つの原理

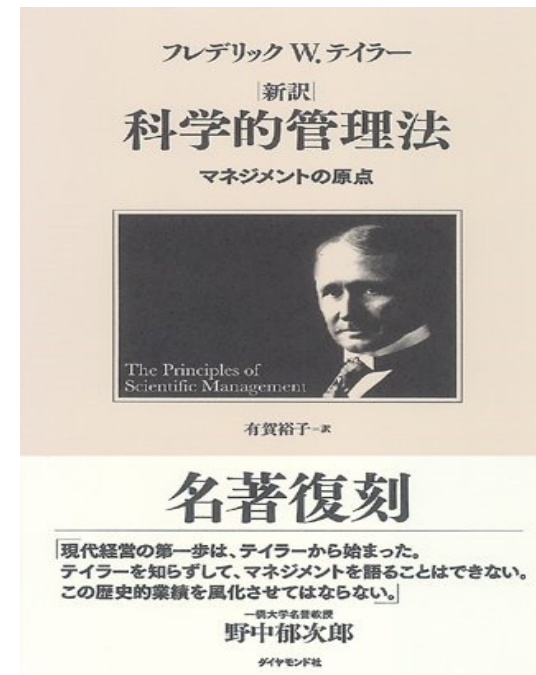
- ① 課業設定の原理： 公正に計画された仕事量を設定する。
- ② 標準的条件の原理： 作業の条件や方法を標準化する。
- ③ 達成賃率： 率を異にした出来高払い。
- ④ 未達成賃率： 率を異にした出来高払い。
- ⑤ 熟練移転の原理： 課業を一流工員の水準に設定・・・高能率工員の作業水準を調べて、標準作業を設定する。

(2) 作業研究(work study)： ①時間研究 と ②動作研究 からなる。

- ① 時間研究： 一連の作業を細かい要素作業に分解。個々の要素作業にかかる時間を計測して分析。
- ② 動作研究： 個々の作業がどのような動作から成るかを分析し無駄な動作を省いたり、効率的な作業方法を見出す。

(3) 指図票制度(instruction card)： 設定された課業の内容を、カードに具体的に明記したもの。

- ① 道具の標準化 ②時間の標準化（同期化） ③作業の標準化 について、完全にマニュアル化すること。





介護施設における科学的管理法

時間の標準化

作業の標準化

項目	内容	標準化日	担当者	ページ
オムツ交換手順	1. 清潔タオル、除菌消毒ボトル(消毒液)、オムツ、汚物入れの取、手指消毒ボトルをバスケットに入れ用意する。	平成23年4月1日	介-2	1/1
準備	1. 床拭き、本人更衣時、デースコール時、居室へ訪問する。その際、気づいた時点で実施する。 2. 利用者におむツ交換を行う事を伝える。			
居室訪問	1. 床拭き、本人更衣時、デースコール時、居室へ訪問する。その際、気づいた時点で実施する。 2. 利用者におむツ交換を行う事を伝える。			
オムツ交換	1. 床拭きを行いプライバシーカーテンを閉める。 2. オムツ交換の形態にならないように両足を屈曲したまま、臀部にオムツを貼る。 3. 床拭きを行いズボンをはき下す。 4. オムツカバーを開き臀部を包みこむことができる場合は、オムツカバーを貼る。 5. オムツを外す。臀部を包みこむことができない場合は、オムツを外す。 6. 汚物を真ん中に包みこむように汚れたオムツを巻き込む。 7. 汚れたオムツを専用バスケットに入れる。(床には絶対に置かない) 8. オムツのしわを伸ばしオムツカバーからはみ出していないかを確認する。			
除菌消毒	1. 除菌消毒ボトルを使用し、消毒する。消毒する際の温度は室温ぐらいが望ましい。高すぎると蒸気が出る。高すぎると蒸気が出る。			
床拭き	1. 床拭きの場合は、居室の手前の奥の隅から奥の隅に向かって拭く。拭いたところは拭き残さず、拭き残さず拭く。拭き残さず拭く。拭き残さず拭く。			
記録	1. 排泄介助は、排泄記録表に排泄・排便の有無、性状、排便時間等を記入することで、排泄を把握し、看護者と連携した対応を図る。			

道具の標準化



施設における数値化の暴力の残存

特養は長い間、「寝たきり老人」を対象に、療養上の世話の延長線上において、生存維持を目的として、過度な集団的かつ管理的ケアを行ってきた歴史がある。

とりわけ、たこ焼きシステムと呼ばれた「オムツ交換」、芋洗いシステムと呼ばれた「入浴介助」、食事戦争と呼ばれた「食事介助」等、これらの仕組みが身体に染み込むと、「あと何人で終わる…」という感覚に陥る。

また、利用者の行動も職員が対応できる範囲の内では問題にされないこともあるが、それを超えると「問題行動」とラベリングされる。

東浩紀という思想家

訂正可能性と「ビッグデータ」

ビッグデータ分析は、個人を対象とすることができず、群れを対象とした確率的な予想しか提供することができない。それは裏を返せば、予想が外れる個人が必ず存在することを意味する。

ここで重要なのは、そこでは個人についての判断が、それぞれの個人の固有性に触れることなく、所属する群れの特性をもとに決定されてしまうということである。

東浩紀という思想家

訂正可能性と「ビッグデータ」

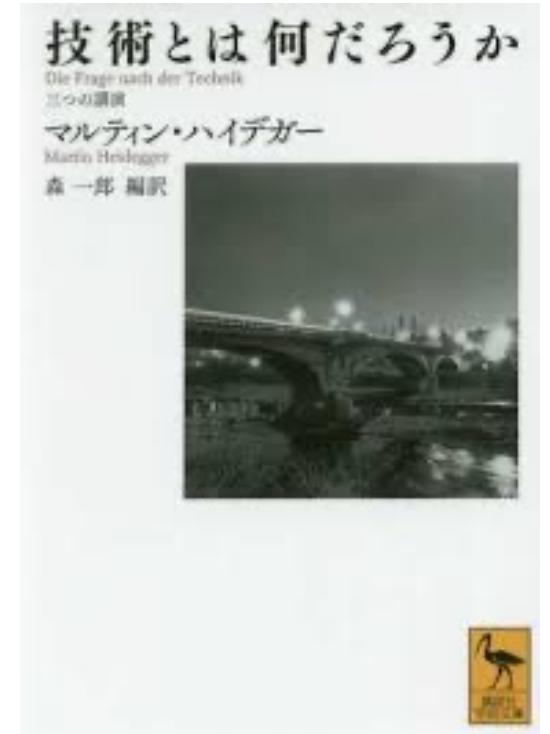
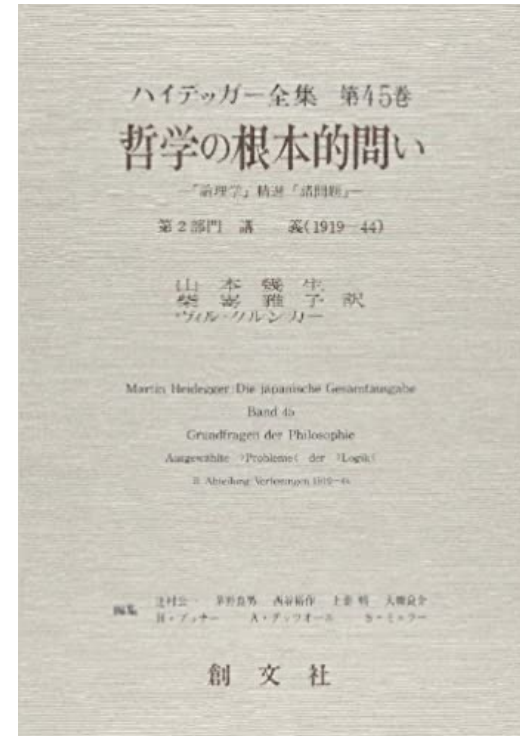
ビッグデータ分析は「ぼく」という特定の個人に関わらない。

あくまでも「僕に似た人々」について確率的な予想を出すにすぎない。

それは「あなたはなにものなのか、あなたはなにものでありうるのかと問うことが決してない」ままに、個人の社会的な評価を変えたり、自由を制限したりしてしまうことになる。

ハイデガー (1889.9.26 – 1976.5.26)

20世紀最大の哲学者の一人



技術について

語源はテクネー（ $\tau \epsilon \chi \nu \eta$ ）

テクネーの語義には注意しなければならないことが二つある。

テクネーという名詞は、手仕事の的なことを行ったり、それができたりすることを表すばかりではなく、工事の技芸や造形技術をも表す。

エピステーメーという語と連関、区分される。

エピステーメー 「認識」 「知識」 → 「学問的知識」 → サイエンス

テクネー 「認識」 「技術」 → 「アレーテイア」 → アート

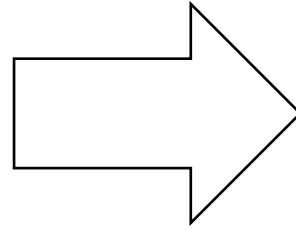
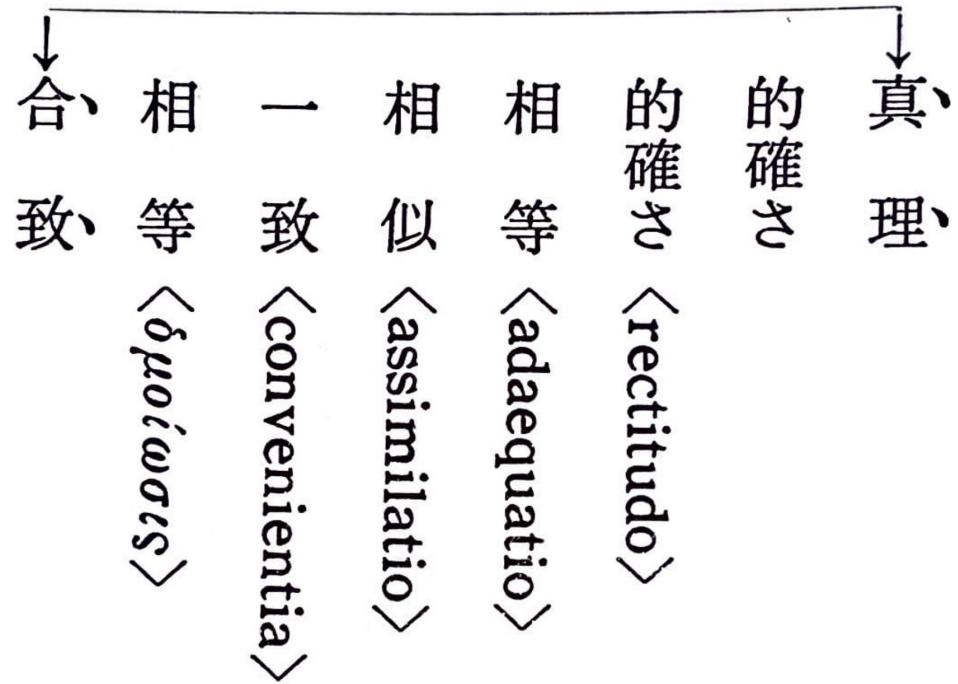
技術とは、顕現のあり方の一つです。技術が本質を発揮している領域とは、顕現させることと隠れなき真相、アレーテイア、真理が生起する領域なのです。

現代技術への危惧としての総かり立て体制

総かり立て体制とは、人間をかり立てる、すなわち徴用して立てるという仕方で現実的なものを徴用物資として顕現させるよう挑発する、かのかり立てる働きを取り集めるもののこと。

人間に対する脅威は、技術的な機械や装置類が可能な限り殺人的に作動することによって生じるものではありません。真の脅威とは…原初的真理の言い渡しを経験することが、人間にできなくなってしまうかねない、という可能性がそれです。

真理の在処



プラトン・アリストテレスにより規定された真理の姿(ロゴス)。

しかし、ハイデガーは彼らの言う的確さは的確さとして基礎づけ出来ていないとした。

そこで、それより前のギリシアの時代まで遡り、的確さの根拠はアレテーア（有るものが隠れ、開いたり閉じたりする状態）であることを確認した。

消えてしまったピュシスという概念

人々の理性が強調される前の時代、古代ギリシアにはピュシスという概念があった。

ピュシスは一般的には「自然」と訳されるが、ネイチャーとは意味が異なる。

ピュシス、それはおのずから発現するもの（例えばバラの開花）、自己を開示しつつ展開すること、このように展開することにおいて現象へと踏み入ること、そしてこの現象の中で自己を引き止めて、そこで永くとどまること、簡単に言えば発現し、滞在する支配を言う。

ロゴスの世界とピュシスの世界

ロゴスの立場

自然は完全に人間の理性の中で暴かれていて、その隠れなさゆえにすべてが理解し尽くせるとする考え方。

ピュシスの立場

矛盾するものや相反するものが無数に存在する自然本来の姿。人間の力(理性)では届かない領域があり、主観/客観の二分割の世界とは異なり、それぞれが分割できない世界観。

ピュタゴラス

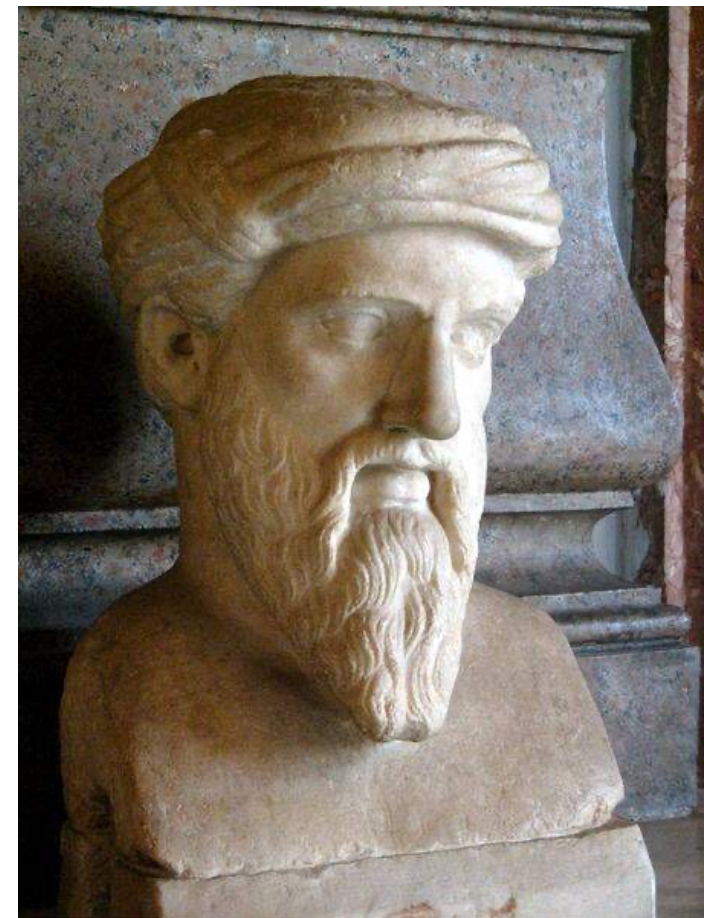
(紀元前582年-紀元前496年)

伝記によると、彼は若くして知識を求めて島を旅だち、古代オリエント世界の各地を旅した。

彼は20年に渡った放浪の末に、当時存在した数学知識のすべてを身につけて、故郷のサモス島に戻ってきた。しかしサモスはポリュクラテスの抑圧支配下であり、学問研究に向かなかったため、イタリア半島の植民地に移住し、その弁舌で多くの人々を魅了した。

彼はクロトンで、彼の思想に共鳴する多くの弟子とともにピタゴラス教団と呼ばれる集団を立ち上げた。この教団はやがて地域の有力者の保護を得て大きな力を持つようになり、数百人の信者を集め、大いに繁栄した。

ところがある時、この後援者が政争に巻き込まれて失脚する。教団は暴徒と化した市民に焼き打ちされて壊滅し、殺されたという。



ピュタゴラスが生んだ世界観

古代ギリシア哲学では、万物のアルケー(原理)を様々な形で考えていました。
ある人は、それを水と表現し、ある人は火と表現した。

ピュタゴラスはそのような万物のアルケーを「数」とであると表現した。

彼は目に見えているもの、耳に聞こえているもの、それそのものはまやかしか
だと捉え、目に見えたり、耳に聞こえたりする世界とは別の世界に本質を捉
えようとした。

この時、「主観性」の世界が生まれた。

※「主観性」の世界とは、根拠のない主観的な考えという意味ではない。

物事を考えるにあたって、対象の合理的・明証的な理解を試みる思考法という程度の意味である。

なので再現性のような客観性も「主観性」の考え方に含まれる。

ヘラクレイトス

(紀元前540年頃 - 紀元前480年頃)

ヘラクレイトスがエペソスの貴族階級に属したことはおそらく間違いない。政治に関しては民主制を軽蔑し、貴族制の立場を取った。

誇り高い性格の持ち主で、友人のヘルモドロスがエペソスの民衆により追放されたことに怒り、政治から手を引いた。

のちにエペソスの人は国法の制定をヘラクレイトスに委託したが、ヘラクレイトスは友人を追放したエペソスの国制を悪しきものとみて、関わりを拒否した。

そしてアルテミス神殿に退いて子供たちとサイコロ遊びに興じたため、人々が不審に思い理由を尋ねると「おまえたちと政治に携わるより、このほうがましだ」と答えたという。

水腫に罹り、医者に見せることを拒んで、自分で治療を試みたが死んだと伝えられる。

ヘラクレイトスの性格



- 人間嫌い
- 人を馬鹿にする
- 激しい口調のような言葉を使う
- 言葉が難しい（理解ができない）
- 気高い
- 権力、権威を拒む。

ヘラクレイトス 断片集『自然について』

理(ロゴス)はここに示されているのに、人々は、それを聞く以前にも、ひとたび聞いてのちにも、決して理解するようにならない。

なぜなら、全てのものごとは、ここに語られた通りに生じているのに、彼らはまるでそれを見聞きしたことがないのも同然で、しかも、多くの話や事実を見聞きしながらそのようなのだ。

ヘラクレイトス 断片集『自然について』

まさにそうしたことを私は詳らかにしており、
それぞれの物事をその本来のあり方に従って分明
し、それがいかにあるかを明示しているというの
に、他の人々には、目覚めてのちに何をしている
のかも、さながら眠っている間の行いを忘れてい
るのと同様に、気づかれていないのだ。

ヘラクレイトス 断片集『自然について』

それゆえ、遍きもの(すなわち共通的なもの)に従わなければならない。しかるに、この理(ことわり)こそ遍きものであるというのに、多くの人びとは、自分独自の思慮を備えているつもりになって生きている。

ヘラクレイトスは何を想い、何を考え、このような言葉を残したのだろうか…。

ヘラクレイトスの心を考える。

いかさま(いかさま師)の元祖／ピュタゴラスはいかさま(いかさま師)

→ヘラクレイトスはなぜ、ピュタゴラスをこのように言ったのだろう。

万物のアルケーは「火」

→ヘラクレイトスの「火」とは何を表現するのだろう。

ヘラクレスの言葉は介護現場に届くか

自然本性は隠れることを望む。

健全に思惟を働かせることが最大の有能さであり、英知とは、ものの本性に耳傾けつつ、真実を語り、ものの本性に則して行為することにある。

本日のオムツ外し学会、さらには生活リハビリ、考える杖という思想とシンクロする部分があるのは気のせいだろうか…。

ベルクソン哲学における「(純粹)持続」概念



① 「流れる時間」

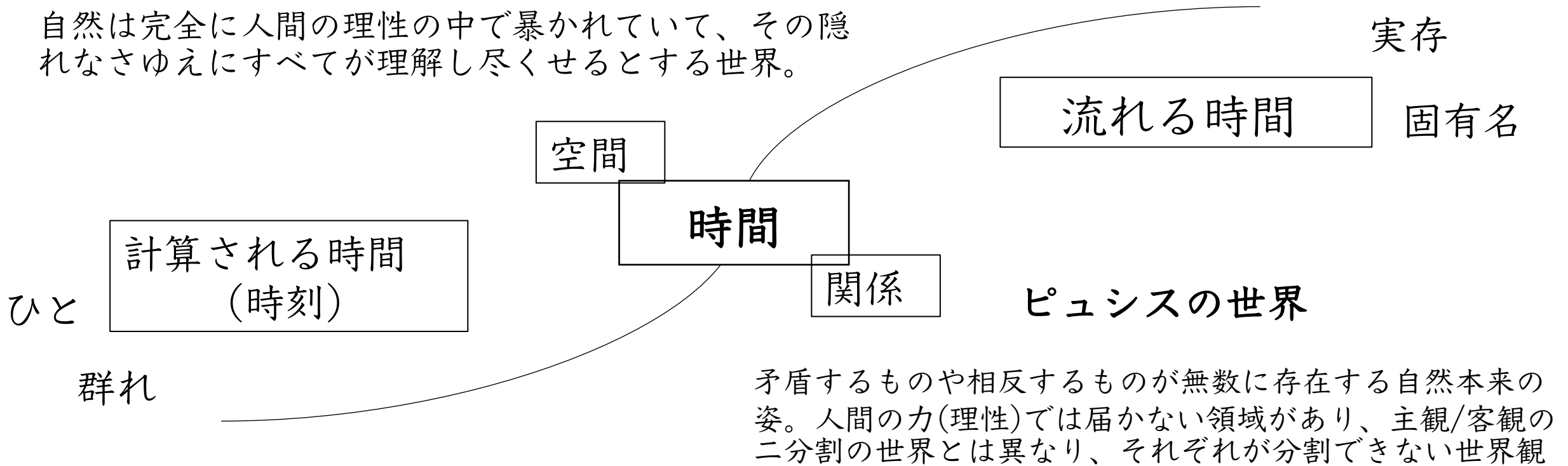
② 「純粹な継起」

③ 「計測不可能」

「相対矛盾」する世界の片隅で。

ロゴスの世界

自然は完全に人間の理性の中で暴かれていて、その隠れなさゆえにすべてが理解し尽くせるとする世界。



ハイデガー 謎の単行本「放下」

放下とは辞書で引けば、「落ち着き」となる。

ハイデガーは放下を「何かをなすがままにさせておく」、「委ねられた状態」と表現している。

放下というテキストは対話形式で記載されており、こちらのタイトルが「アンキバシエー」である。

「アンキバシエー」とは緊迫と訳されていたが…遠くて近い、早いように遅いと言った二つの相反する言葉を内包した言葉を表す単語。

「放下」からのヒント

●二つの思惟(無思惟／省察する熟慮)

→科学は考えることをしなくなる。私たちはどうだろうか？

●土着性／故郷

→故郷とは地名のことではない。私たちが見続けるべき足元の世界のことを指している。私たちはそこにしっかりと足を着け世界を見ているだろうか。

●「然り／否」の関係

→ロゴスの考え方は当然必要である。しかし、それが私たちの世界を荒らそうとした時には否といえる状態。

●秘密＝謎に向けての開け

分からないこと、明らかににならないことに目を背けるのではなく、秘密＝謎に自分が開く姿勢で佇むことができているだろうか？

老いの世界に佇むということ

こうした瞬間には思い出の甘美さと未来への楽しみが含まれていた。

わたしたちは三十歳なのか、六十歳なのか。アンドレの髪は早くから白くなった。かつては、その雪のような白さは彼の顔色のしっとりした若々しさを引き立てて、お洒落に見えた。

それはいまでも魅力的だった。皮膚は硬くなり、古い皮革のように細かいひびが入っていたが、口元と眼に宿る微笑は相変わらず輝きを保っていた。

アルバムの写真は否定しても、彼の顔はいまも若い頃のイメージのままだった。ニコルにはいったい彼が何歳なのかわからなかった。おそらく、彼自身、自分の年齢を忘れているように見えたからだ。

老いの世界に佇むということ

かつて彼は、あんなに走ったり、泳いだり、登ったり、そして自分の姿を鏡に映してみるのが好きだったのに、いまは無頓着にその六十四歳という年齢を受け入れていた。

笑いや涙、怒りや抱擁、告白、沈黙、ほとばしる情熱とともに過ぎ去った長い人生、それでいて時には、時間は流れなかったかのように思われる。未来はいまも広がっている、果てしなく。

結び

貴重なお時間をありがとうございました。

本日が皆様にとって素敵な時間になりますように。